

<研究報告>地域コミュニティ施設の整備状況に関する研究：鹿児島県の事例

著者	友清 貴和, 坪根 政澄
雑誌名	鹿児島大学工学部研究報告
巻	41
ページ	107-113
別言語のタイトル	A Study on the Preparation Circumstances of Public Institutions in a Region : using Kagoshima Prefecture as a Model
URL	http://hdl.handle.net/10232/527

<研究報告>地域コミュニティ施設の整備状況に関する研究：鹿児島県の事例

著者	友清 貴和, 坪根 政澄
雑誌名	鹿児島大学工学部研究報告
巻	41
ページ	107-113
別言語のタイトル	A Study on the Preparation Circumstances of Public Institutions in a Region : using Kagoshima Prefecture as a Model
URL	http://hdl.handle.net/10232/00003240

地域コミュニティ施設の整備状況に関する研究 (鹿児島県の事例)

友 清 貴 和*・坪 根 政 澄**

A Study on the Preparation Circumstances of Public Institutions in a Region
(using Kagoshima Prefecture as a Model)

Takakazu TOMOKIYO and Masazumi TSUBONE

This report presents a study of local community institutions in Kagoshima Prefecture. The purpose is to classify the institutions into similar types and grasp the situations of setting up these facilities by local communities.

More specifically, we analyzed the scales of communities induced by characteristics of communities which become the base for preparation of the institutions, and after classifying them into similar type we compared and analyzed the present situation of implementing the institution in local communities, and we grasped the present stage of establishing institutions for the whole prefecture of Kagoshima.

Key word: Public institution, Characteristic of area, Type, Situation of preparation Large area

1. 研究背景・目的

地域コミュニティ施設は生活環境の変化に伴い、コミュニティの意味が変容してきた結果、温泉や特産物などの地域資源を活用した、サービス型の保養・交流・物産施設など、施設内容も多様化している。

一方地域経済の側面から見ると、施設の建設事業は、中小市町村に一時的な利便性と豊かさや夢をもたらすが、市町村の財政規模からみれば明らかに過剰投資と思われるものも多い。

現在我が国では、財政構造改革に伴う公共事業の抑制や行政事務の整理、フロー型からストック型の社会基盤づくりなどが提案されている。これらの政策が実現に移されると、地域施設の建設抑制に伴う地域経済の低迷、既存施設の維持管理費による自治体財政の圧迫などが予測される。

このため今後は、地域に必要な地域コミュニティ施設等の本来のあり方の見極め、施設の有効利用を視野においた施設群再編の検討、複数の市町村による施設の機能分担や広域的利用・運営・管理の可能性追求などが必要となるであろう。

以上のような問題認識に立脚し、本研究は、鹿児島県下96市町村を対象に、

①広義のコミュニティ施設建設実態の歴史的変容を整理し、②市町村のコミュニティ施設の整備特性を類型化した上で、③高齢化少子化が進行する地方中小市町村での新たなコミュニティ施設の役割を展望し、④複数の市町村による、施設の広域利用・運営・管理を前提とした、施設群再編の可能性を探り、⑤適正整備圏域と施設再編計画を地図情報として示すことを目的とするものである。

本報告では、上記・において、鹿児島県下各市町村における地域コミュニティ施設整備の現状把握を目的に分析を行った。

具体的には、施設整備の基盤となる地域特性によって導き出される市町村規模の分析を行い類型化した上で、各市町村での施設整備の現状を比較・分析するとともに、鹿児島県全体での施設整備状況を把握した。

2. 研究方法

鹿児島県下96市町村を対象にして、昭和35年以降、地域コミュニティ施設の整備状況を把握するため、過去3回にわたり、アンケート調査を実施した。調査項目は、施設名称・開所年月日・延床面積・部屋の名称と数・具体的な利用内容・事業名と資金源である。このアンケートで得られたデータをもとに、各々の施設の役割を明確

平成11年5月31日受理

*建築学科

**博士前期課程建築学専攻

にするため、表1のように5つの大分類からなる施設種類に分類した。

次に、地域特性から導き出される市町村の規模は、施設整備状況を分析する上で重要な指標となり得ると考えられるため、人口特性・可住地面積、財政規模(歳入)の要素から市町村の類型化を行った。そして、市町村類型をもとに、施設の延床面積と市町村の人口密度により導き出される整備指標から、施設整備状況を比較・分析し、鹿児島県の全体像として把握を行った。

3. アンケート調査の概要

・調査方法

鹿児島県の市役所・役場に対して、施設整備に関する調査表を送付し、調査表記入の上、回収を行った。

・調査対象施設

高度経済成長期に入る昭和35年から現在まで、公的機関により建設され、当該市町村住民に、またはそれ以外からも利用される施設とする。(集落のみで使われる集会所、厚生施設の中で、老人ホームや障害施設など、利用者が特定される介護専門の施設は除く)

・アンケート調査項目

- ・施設名・開所(完成)年月日・延床面積
- ・資金源(補助事業、資金別の割合)
- ・部屋の種類と数・利用方法例

・アンケート調査の経緯

鹿児島県内に設置されている、より多くの施設データを収集するために、過去3度にわたり調査をおこなった。回収率はそれぞれ第1次;87.5%(84/96市町村)、第2次;91.7%(11/12市町村)、第3次;45.8%(44/96市町村)で、合計1537施設のデータを収集できた。

4. 地域コミュニティ施設の分類

地域コミュニティ施設は、昭和60年以降、「地域興し、定住促進、交流拠点、生涯学習」を合い言葉に、広い意味でコミュニティ施設に含まれる、多様な施設が整備されてきた。それは、時代の変化とともにコミュニティの意味が変容してきた結果であり、また、施設名称や施設内容にも変化・多様化を見ることができる。

そこで、社会的・経済的背景より多様化している地域コミュニティ施設を、施設機能や建設された背景、地域住民の施設活用例より分類し、各々の施設の役割を明確にした。

アンケート調査で対象とした施設を、『地域施設の計画 日本建築学会編』での「地域施設を含む都市計画対象施設の分類」を参考にし、施設名称や施設機能、建設関連事業により、系統的にまとめたものがTable1である。

小分類に属する公民館や図書館、体育館等の施設例を、

Table 1: Classification of public institution of region

Large classification	Middle classification	Small classification		
		Public hall	Library	Institution of life study
Institution of education	Institution of education	Institution of nature	Institution of young women	Institution of young men
		Institution of meeting for the town village	Institution of training for the town village	The seeing and hearing center
	Institution of culture	Museum building	Music hall	Museum
		Gymnasium	Indoor athletic ground	Athletic ground
		Baseball field	Tennis court	Gate ball ground
		Field and track events ground	Training center	Swimming pool
Institution of sports	The martial arts ground	Archery ground	Sumo wrestling hall	
	The health center	The welfare center	The mother and child building	
Institution of public welfare	Institution of health and welfare	Child building	The neighborhood building	
		Campground	Park/Open space	Institution of game
Institution of leisure	Institution of leisure	Beach	The prospect place	
		Lodge managed by a local government	Youth hostel	Institution of lodging
Institution of lodging and rest	Institution of rest	The hot spring center	Institution of break	
		Institution of industry and commerce	Institution of purchasing	Institution of eating and drinking

日常生活に求められるコミュニティの系統別に社会教育施設、文化施設、スポーツ施設、保健・福祉施設、レジャー施設、宿泊施設、休養施設、産業・商業施設の中分類に、また5つの大分類に分類している。

地域コミュニティ施設の本来持つ役割が、地域住民の生活を支えるものであるならば、当該整備地域の特性を活かした計画・機能設定が成されるべきであり、すべての地域に画一的な計画は避けるべきである。

しかし、従来の縦割り行政による施設整備のため、生涯学習機能を持つ公民館や、農村集会施設の設置など、地域内での同機能を持つ施設の設置が見られるのも現状である。地域の現状に視点を置き、地域住民の多様な生活ニーズに対応した施設整備が必要である。

5. 鹿児島県各市町村の地域特性分析

地域特性は、市町村の社会状況や経済状況のあらわれであり、市町村を形づくる基盤である。そして、地域特性から導き出される市町村の規模は、地域コミュニティ施設の整備状況を分析する上で重要な指標となり得る。

5-1. 地域特性分析の方法

市町村の類型化には、地域特性の要素の内、人口特性と財政規模を取り上げた。各市町村の総人口・可住地面積より人口集中度を、地方税・地方交付税・国庫支出金より財政力指数を算出した。

人口集中度とは、各市町村の可住地面積に対する人口の割合である。この値が高いほど人口の集中度といつた都市型の要素が高いことになる。

財政力指数とは、国が設定した行政水準の維持に必要な財政需要を、自治体の収入調達力でどの程度まで達成できるかを表したものである。本稿では、市町村の収入調達力として地方税を、国からの補助として地方交付税・国庫支出金を使用している。この値が低いほど、国に依存する程度が大きくなり、財政収支上の赤字の抵抗力に乏しいことになる。

この2つの指標を軸にとり、グラフ上にプロットし(Fig. 1)、市町村の類型化を行い、その特徴を分析した。

Expression 1
 (The degree concentrated on population) = A / B [1000 persons/k m²]
 A : General population in city [1000 persons]
 B : The area that a house is possible in city [k m²]
 Expression 2
 (Index of finances power) = C / D
 C : Local rates in city
 D : (Local rates + The tax allocated to local governments + National treasury Disbursements) in city

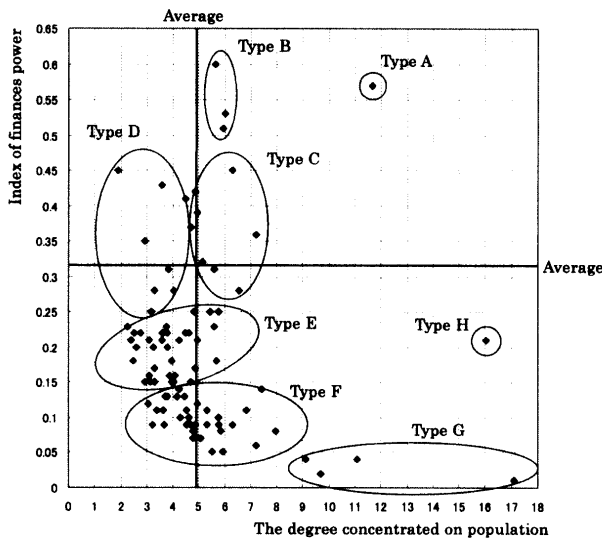


Fig. 1 : The graph which divided the city into the type

Table 2は各市町村の指数を、Fig. 2は、類型の分布を略地図上に示したものである。

5-2. 市町村の類型

各市町村の人口集中度と財政力指数の特徴から鹿児島県を8類型に分類した。特徴として、財政力指数の分布より類型A,B型、C,D型、E,F,G,H型の3グループで財政運営上の格差がみられたことがあげられる。

以下に、各類型の説明を示す。

類型A型（1）；人口集中度・財政力指数がともに高い数値を示している。この類型に属する鹿児島市は、人口50万人をこえる地方中核都市の役割を担っている。

類型B型（3）；法人による納税が多いため財政力指数が高く、人口規模も比較的大きい地方中小都市である。

類型C型（7）；人口集中度、財政力指数がともに県平均もしくはそれ以上の値を示す地方小都市である。

類型D型（8）；財政力指数は、類型C型と同等であるが、人口集中度が県平均を下回る市町村である。

類型E型（38）；全類型中で最も多くの市町村が属している類型である。財政力指数が県平均を下回っている。

類型F型（34）・G型（4）；この2類型には、過疎・高齢化が進む市町村が多く属している。類型G型中の4村は離島で、可住地面積が非常に小さいため、人口集中度が高くなっている。

Table 2 : The degree concentrated on population, Index of finances power and The type of each city

City Name	The degree concentrated on population	Index of finances power	Type	City Name	The degree concentrated on population	Index of finances power	Type	City Name	The degree concentrated on population	Index of finances power	Type	City Name	The degree concentrated on population	Index of finances power	Type
Type A/1 Cities				Aluna-shi	561	0.23	E	Kinojo-cho	311	0.15	E	Togo-cho	493	0.12	F
Kagoshima-shi	1166	0.57	A	Kaseda-shi	542	0.25	E	Ei-cho	310	0.21	E	China-cho	484	0.09	F
Type B/3 Cities				Tarumizu-shi	493	0.21	E	Kamiyaku-cho	309	0.18	E	Seto-son	479	0.07	F
Hayato-cho	603	0.53	B	Ichiki-tyou	488	0.17	E	Takarabe-cho	291	0.15	E	Sata-cho	476	0.08	F
Kokubu-shi	592	0.51	B	Miyanojo-cho	481	0.25	E	Sueyoshi-cho	277	0.22	E	Wadomari-cho	471	0.09	F
Sendai-shi	585	0.60	B	Onajime-cho	470	0.15	E	Anake-cho	258	0.20	E	Kikai-cho	461	0.10	F
Type C/7 Cities				Matsumoto-cho	462	0.22	E	Osaki-cho	250	0.22	E	Yoron-cho	453	0.09	F
Kushikino-shi	721	0.36	C	Higashichiki-cho	450	0.22	E	Osumi-cho	248	0.18	E	Uchinoura-cho	452	0.11	F
Makurazaki-shi	655	0.28	C	Iriki-cho	423	0.21	E	Chiran-cho	238	0.21	E	Nakatane-cho	446	0.13	F
Kajiki-cho	629	0.45	C	Kaimon-cho	408	0.18	E	Kushira-cho	228	0.23	E	Azuma-cho	430	0.10	F
Izumi-shi	559	0.31	C	Aira-cho	404	0.15	E	Type F/34 Cities				Kedouin-cho	425	0.14	F
Ibusuki-shi	518	0.32	C	Kamo-cho	399	0.15	E	Shimokosaki-son	794	0.08	F	Yaku-cho	414	0.13	F
Kanoya-shi	493	0.39	C	Tsuruda-cho	397	0.15	E	Tokunoshima-cho	741	0.14	F	Yoshimatsu-cho	380	0.13	F
Aira-cho	484	0.42	C	Koriyama-cho	395	0.18	E	Izen-cho	721	0.06	F	Satsuna-cho	371	0.13	F
Type D/8 Cities				Fukuyama-cho	388	0.16	E	Setouchi-cho	683	0.11	F	Tashiro-cho	366	0.09	F
Ijuin-cho	468	0.37	C	Okuchi-shi	379	0.22	E	Amagi-cho	629	0.09	F	Nagashima-cho	361	0.11	F
Shibushi-cho	449	0.41	D	Hiwaki-cho	377	0.20	E	Sumiyou-son	594	0.05	F	Matsumoto-cho	337	0.11	F
Makazono-cho	404	0.28	D	Kirishima-cho	376	0.23	E	Kasasa-cho	586	0.08	F	Kihoku-cho	323	0.09	F
Yamagawa-cho	384	0.31	D	Takano-cho	364	0.22	E	Kaeri-cho	583	0.08	F	Hiyoshi-cho	304	0.12	F
Mizobe-cho	357	0.43	D	Kurino-cho	358	0.21	E	Tatsugou-cho	577	0.10	F	Type G/4 Cities			
Koyama-cho	330	0.28	D	Kawanabe-cho	357	0.22	E	Bounoteu-cho	576	0.09	F	Mishima-son	17.1	0.01	G
Kira-cho	291	0.35	D	Yokogawa-cho	331	0.17	E	Uken-son	551	0.05	F	Kashima-son	11.1	0.04	G
Higashikushira-cho	189	0.45	D	Noda-cho	328	0.15	E	Sakurajima-cho	533	0.11	F	Toshima-son	9.70	0.02	G
Type E/36 Cities				Minamitane-cho	327	0.20	E	Kamikoshiki-son	532	0.09	F	Yamato-son	9.10	0.04	G
Yoshida-cho	576	0.25	E	Hiishikan-cho	319	0.25	E	Oura-cho	506	0.07	F	Type H/1 Cities			
Nishinoomote-shi	568	0.18	E	Fukiage-cho	311	0.15	E	Najime-cho	495	0.12	F	Naze-shi	16.01	0.21	H
Average															
496 0.32															

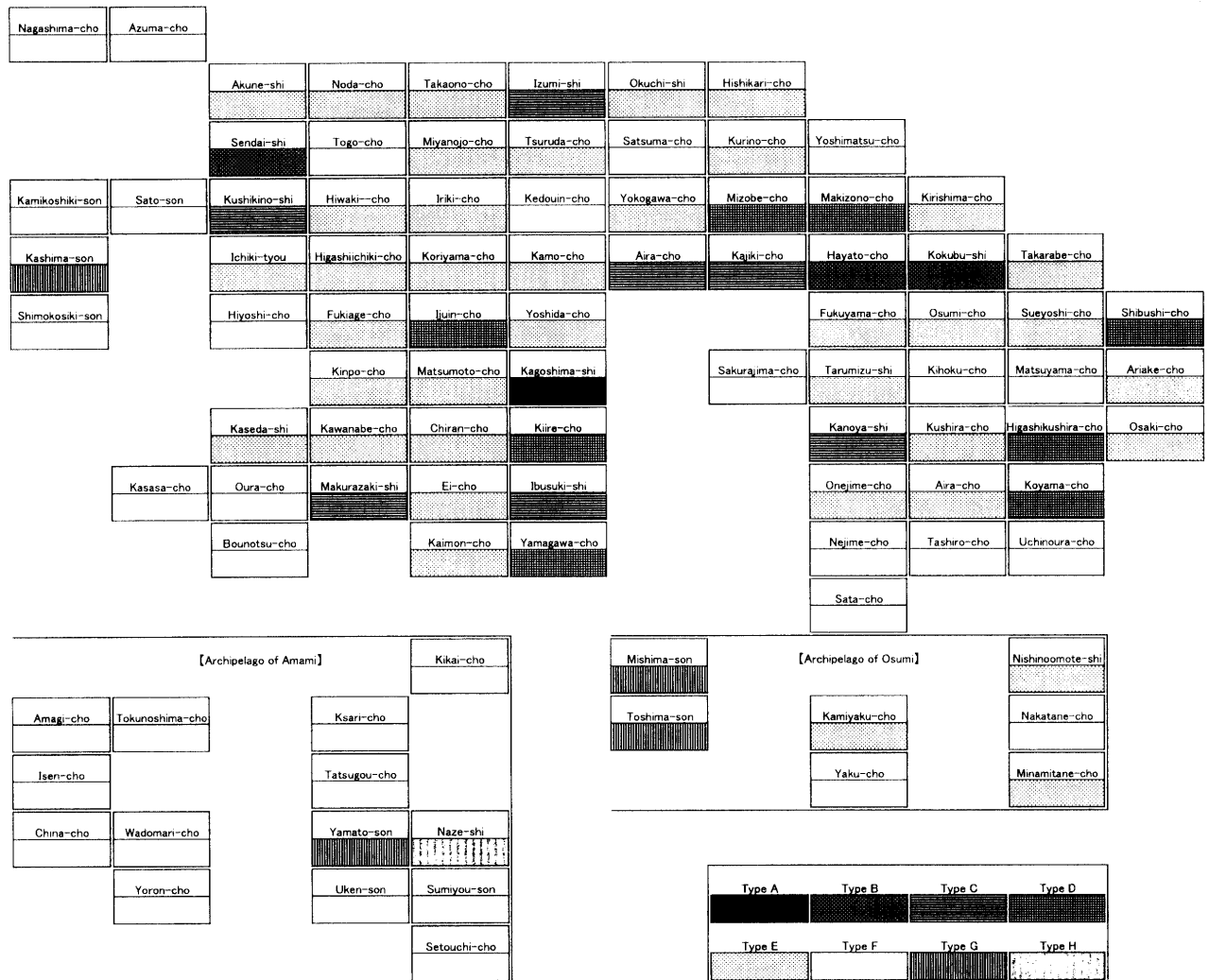


Fig.2 : Distribution of type of each city in Kagoshima

類型H型(1)：人口集中度は高いのだが、国庫支出金の占める割合が高いため財政力指数が低くなっている。名瀬市だけが属する特殊な類である。

※ () 内の数字は、各類型に属する市町村数を示す。

6. 鹿児島県における施設整備状況

地域特性と施設整備状況の関連を鹿児島県の全体像として明らかにするため、市町村類型での施設整備の特徴について分析を行った。

6-1. 整備指標の算定

Expression 3より、各市町村ごとの整備指標を人口密度と施設の延床面積を用い導き出す。それをもとに式4より、市町村類型別の整備指標を求めると。

Expression 3のEは、各市町村で1・あたりの人口が利用できる施設の延床面積を表している。Eを、鹿児島県全体での整備指標Fで割ることで、整備指標の1.00を

Expression 3
 (Preparation index) $X = E / F$
 E: The total of total of floor space in each middle classification to establish the institution of the area [m²]
 / Each population density of the area to establish the institution | persons / m² |
 F: The mean of total of floor space in middle classification [m²]
 / Population density of Kagoshima [persons / m²]

Expression 4
 (Preparation index to depend according to the type of each city) $X' = G / F$
 G: The mean of preparation index in the type

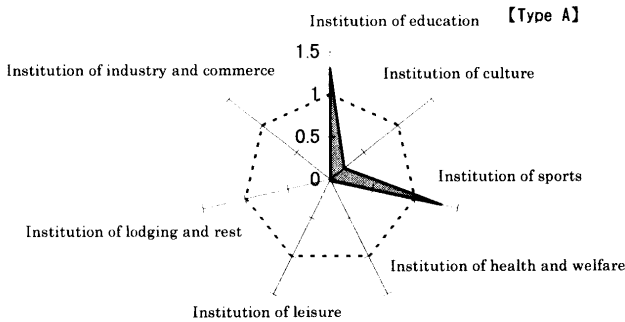
基準として各市町村の整備状況を比較・分析することができる。

6-2. 市町村類型別の施設整備状況

6-2-1. 類型間の特徴

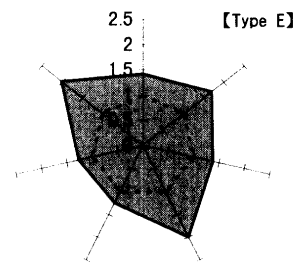
保健・福祉施設の整備指標が、類型A型では鹿児島県平均を大きく下回り、B,C,Dでは平均付近、E,F,G,Hでは上回っている。A→Fで段階的に整備指標が大きくなっている。また、A→Fは過疎・高齢化の進行度が高

Table 3 : Index of preparation watched according to the type

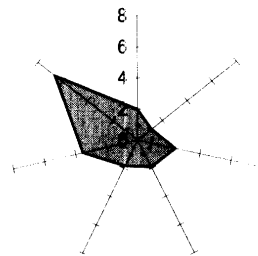


Type A		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	1.30	1.30	1.30	
Institution of culture	0.21	0.21	0.21	
Institution of sports	1.31	1.31	1.31	
Institution of health and welfare	0.02	0.02	0.02	
Institution of leisure	0.00	0.00	0.00	
Institution of lodging and rest	0.00	0.00	0.00	
Institution of industry and commerce	0.00	0.00	0.00	

Type E		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	4.59	1.42	0.16	
Institution of culture	14.71	1.70	0.00	
Institution of sports	12.83	1.38	0.00	
Institution of health and welfare	25.86	2.00	0.00	
Institution of leisure	20.34	1.25	0.00	
Institution of lodging and rest	8.24	1.27	0.00	
Institution of industry and commerce	23.13	2.02	0.00	

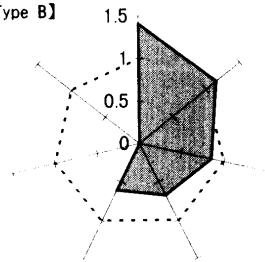


【Type F】



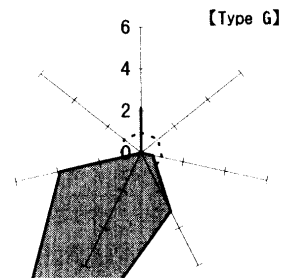
Type F		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	12.88	1.99	0.00	
Institution of culture	7.45	1.12	0.00	
Institution of sports	13.20	2.41	0.00	
Institution of health and welfare	8.89	1.92	0.00	
Institution of leisure	45.23	1.84	0.00	
Institution of lodging and rest	31.26	3.53	0.00	
Institution of industry and commerce	102.13	6.65	0.00	

【Type B】

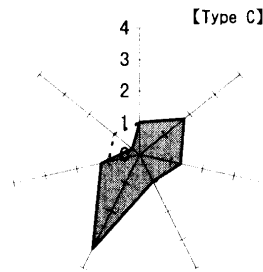


Type B		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	2.87	1.41	0.56	
Institution of culture	2.54	1.15	0.12	
Institution of sports	2.36	0.85	0.01	
Institution of health and welfare	0.84	0.68	0.58	
Institution of leisure	1.84	0.61	0.00	
Institution of lodging and rest	0.00	0.00	0.00	
Institution of industry and commerce	0.00	0.00	0.00	

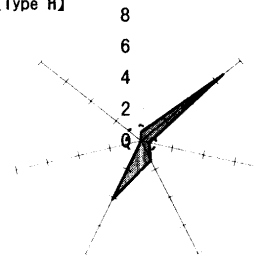
Type G		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	6.95	2.14	0.00	
Institution of culture	0.00	0.00	0.00	
Institution of sports	2.25	0.56	0.00	
Institution of health and welfare	6.52	3.11	0.00	
Institution of leisure	68.01	17.13	0.00	
Institution of lodging and rest	15.52	3.88	0.00	
Institution of industry and commerce	0.00	0.00	0.00	



Type C		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	3.03	1.02	0.00	
Institution of culture	5.13	1.78	0.00	
Institution of sports	3.63	1.31	0.19	
Institution of health and welfare	2.26	0.95	0.44	
Institution of leisure	22.59	3.33	0.00	
Institution of lodging and rest	4.67	1.23	0.00	
Institution of industry and commerce	1.06	0.30	0.00	

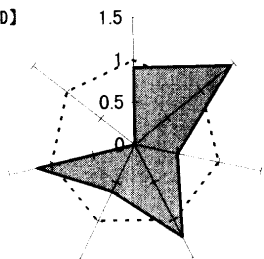


【Type H】



Type H		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	0.55	0.55	0.55	
Institution of culture	6.62	6.62	6.62	
Institution of sports	0.53	0.53	0.53	
Institution of health and welfare	1.38	1.38	1.38	
Institution of leisure	4.13	4.13	4.13	
Institution of lodging and rest	0.00	0.00	0.00	
Institution of industry and commerce	0.00	0.00	0.00	

【Type D】



Type D		Index of preparation		
Middle classification	max.	ave.	min.	
Institution of education	1.88	0.91	0.04	
Institution of culture	3.85	1.46	0.00	
Institution of sports	1.63	0.51	0.00	
Institution of health and welfare	3.66	1.23	0.00	
Institution of leisure	4.85	0.62	0.00	
Institution of lodging and rest	4.97	1.17	0.00	
Institution of industry and commerce	0.00	0.00	0.00	

くなる方向性を持っており、Fに向かうにつれ高齢者福祉センターや保健センターなど厚生省関連の補助事業をもとに、施設整備を行う傾向がみられた。

Table 3の整備指標最小値に注目すると、整備されていない中分類施設があることが分かる。その中でも地域コミュニティの基盤となる社会教育施設の整備が行われていない市町村もみられた。ある特定の施設種類が不足

する場合、当該市町村内における新規整備か、または他施設との併用、もしくは広域的に解決する方法の考慮が必要である。

6-2-2. 市町村類型別の特徴

類型A型；社会教育、スポーツ施設で県平均を超えている。この類型に属する鹿児島市は、施設設置数では他の市町村と比較して群を抜く存在である。しかし、抱

える人口も莫大であり、その人口に対する施設整備状況は必ずしも十分であるとはいえない状態である。

類型B型；社会教育、文化施設以外の中分類で整備指標が平均を下回っている。その要因として、類型A型と同様に都市の進行度が高いことがあげられる。また、施設の併設・複合が数多くみられ、大規模で多機能な施設が設置されていることも特徴の一つである。

類型C型；4つの中分類で整備指標が平均を上回っている。この類型に含まれる5市は、それぞれが属する市郡内で都市形成の中核を成している。その他の3町も隣接する鹿児島市に連続する形で、人口が増加し、人口集中度も高くなっている。施設整備は社会教育施設を中心に数多く設置されているが、抱える人口も大きいため整備指標は低い。

類型D型；文化、保健・福祉、宿泊・休養施設で整備指標が県平均を上回り、この3分類と社会教育施設については、県の標準値とほぼ同等である。宿泊・休養施設では最近5年間で温泉施設や国民宿舎が設置されたため平均値を上回った。

類型E型；この類型は最も多くの市町村が属しており、人口1万人前後の規模を持つ市町村が多い。整備指標は、宿泊・休養施設を除く中分類すべてが県平均を上回っている。社会教育施設では、農林水産省関連の事業を中心に整備されたものが多くみられ、文化施設では大規模な音楽ホールが設置されている市町村がみられたため、平均値を上回る結果となった。

類型F型；全ての中分類において整備指標が県平均値を上回っている。特に産業・商業施設の値が高いことが分かる。その要因として、地域の活性化を目指し、地元の資源を活かした特産品の展示・加工・販売の機能を有した施設の整備が行われていることがあげられる。

類型G型；整備指標が社会教育施設、保健・福祉施設、宿泊・休養施設で県平均より高い数値を示している。この類型に属する4村において、施設種類を問わず整備された施設が、地域住民の集会施設として使われる事例がみられ、施設分類を超えた使用用途の併用が特徴としてみられた。

類型H型；この類型に属する名瀬市は、奄美群島の中核となる市町村であり、人口規模も大きい。整備指標は文化、保健・福祉、レジャー施設で県平均を上回る。奄美群島の開発事業で周辺市町村の利用を見越した大規模な音楽ホールや体育館、海浜公園の整備がなされていることが特徴としてあげられる。

7. 地図情報システム構築の検討

本研究は、最終的に地理情報ソフトを活用することで、市町村の人口等の地域特性や施設データを地図情報とし

て蓄積し、地図画面上で適正な広域圏の提示を行い、施設再編計画を種々検討可能なシステムを構築するものである。そこで本報告では、現在の施設データをいかにシステムに組み込み活用できるか、その手法を検討する。

7-1. 市町村の地域特性データ

Fig. 3は、各市町村における人口密度をグラデーションにより地図上に示したものである。人口や面積、財政規模、職員数等の地域特性データを表示することで、表やリストよりも効率よく複雑な情報を分析することができる。

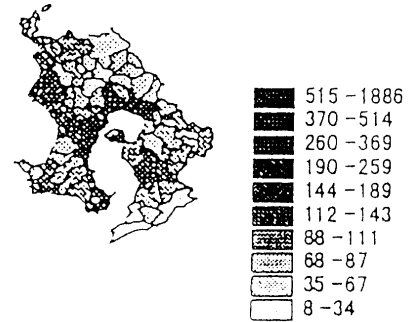


Fig. 3 : Population density of the mainland of Kagoshima

7-2. 施設データの入力・検索

Fig. 4は、施設データ（名称・種類・延床面積等）を実際に設置されている位置に入力したものである。あるポイントから特定の距離内に存在する施設の把握、また各市町村に整備された施設数量・規模・種類により、ある設定条件のもと適当な施設の検索などの活用例が考えられる。

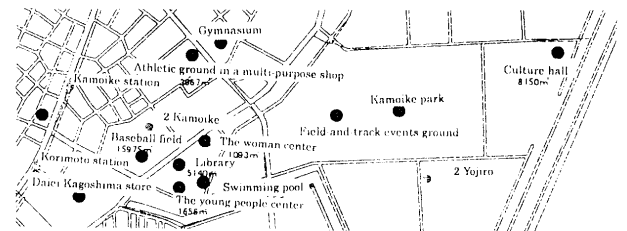


Fig. 4 : The example which was input data of an institution into

7-3. 適正圏の抽出

人口・面積・施設設置数等のデータから、Fig. 5のように広域圏を設定できる。既存施設の再編計画を提示する上で、圏域内で重複する施設を整理し、市町村間・施設間での機能・役割分担の考慮ができ、また整備圏域の境界線を変更しても、容易に新しい情報を提示することができる。新規整備を行う場合は、どの市町村で圏域を構成するべきか、圏域適正規模のスタディを地図画面上で行える。

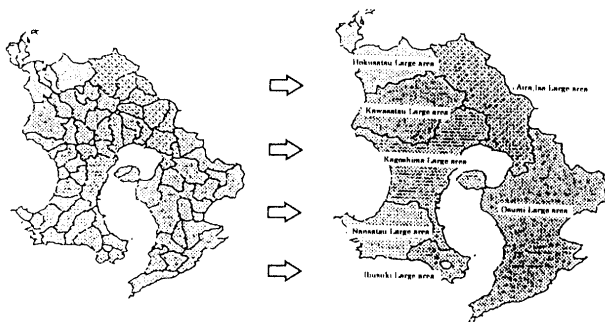


Fig. 5 : The example of large area level

8. 地域コミュニティ施設の広域的利用について

自治体は会館等のビルディングタイプの施設整備を行うに際して、類似施設の乱立を避け窮迫する財政の無駄を省く上でも、効率的かつ確かな整備を行う必要がある。そのためには、広域的な視点で複数の自治体における地域コミュニティ施設の利用・運営・管理が必要不可欠であり、広域圏を構成する自治体の役割分担が重要である。

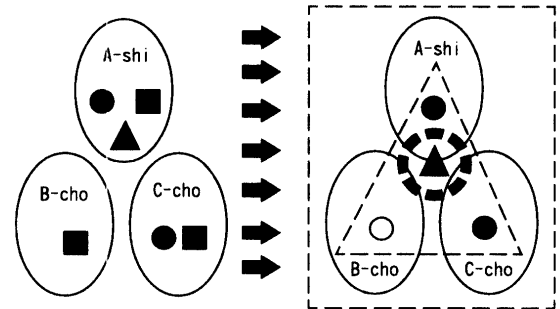
A市の音楽ホールを広域的に管理運営することで、維持管理費が軽減できる。B町で他施設を図書館に併設することで、3市町で図書機能が分担され、ネットワーク化することでより利便性が高まる。運動公園を3市町で整備すれば、大規模で多機能な施設ができ、多彩なイベントの実施が可能になる。

9. まとめ

分析の結果、地域コミュニティ施設の整備状況は、施設種類により、また各市町村によって格差がみられた。人口密度が高く財政力にゆとりのある市町村においては、設置数の上では数多く整備され充実しているようにみえるが、人口規模の大きさを考慮すると必ずしも充足しているとはいえない状況であった。逆に、農山村部や離島の高齢化・過疎化が進行している地域においては、設置数は少ないが、施設整備の充実傾向もしくは過度な整備の状況もみることができた。このように、各市町村における施設整備状況は、現在に至るまでの整備の経緯、今後の整備方針、人口・面積・財政状況などの市町村規模、地理的条件（可住地面積）など、自治体の実情に応じて様々であった。

今後の地域コミュニティ施設の整備に重要なことは、広域的な視点に立ち、特定の施設種類に偏ることなく地域性に応じた施設整備を図ることである。そのためには、

The example for the profit at having used the institution in the large area



Sign ● : Library ■ : Gymnasium ▲ : Music hall
○ : The institution which rescheduled it to a library

各市町村での人口・面積・施設数・施設種類や市町村間の結びつきやすさ等の具体的データを勘案した整備圏を設定した上で、施設の適正配置、施設群の再編の可能性を考慮しなければならない。

▼参考文献

「地域施設の計画 21世紀に向けた生活環境の創造」
日本建築学会編/丸善/1995
「新建築学大系21 地域施設計画」
新建築学大系編集委員会編/彰国社/1984
「建築大辞典 第2版」
彰国社/1993
「鹿児島県統計年鑑」
鹿児島県統計協会/1935～1998
「入門 地方財政」
伊東弘文/ぎょうせい/1996
「公共事業をどうするか」
五十嵐敬喜・小川明雄/岩波書店/1997
「imidas 1998」
集英社/1998
「朝日キーワード1999」
朝日新聞社編/1999
「広域市町村圏 ー新しい生活圏行政ー」
自治省行政局振興課編/全国加除法令出版/1973
※謝辞；本研究を進めるにあたり、調査に協力して下さった鹿児島県96市町村の市役所、町村役場の方々に厚く御礼申し上げます。
※本研究は、科学研究費基盤研究(C)(2)課題番号10650610（研究代表者；友清貴和）の助成を受けたものである。